

☆聖書で祈る☆

マルコ 9:33~37 「いちばん偉い者」

33:一行はカファルナウムにきた。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。34:彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。35:イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」36:そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。37:「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

1 コリント 12:12 「一つの体、多くの部分」 (本文省略)

1 ペトロ 4:10~11 「神の恵みの善い管理者」 (本文省略)

▽参考資料▽

使徒職教令 1 (序)

神の民の使徒的活動をより活発に盛りあげることを希望して、聖なる公会議は、キリストを信ずる信徒に心を向ける。教会の使命における信徒の固有な、また絶対に必要な役割については、公会議の他の文書においてすでに述べた通りである。すなわち、キリスト者としての召命そのものから生れる信徒使徒職は、教会に決して欠くことのできないものである。初代教会において、信徒の使徒職活動が、どれほど自発的に、どれほど実り豊かに行なわれたかについて、聖書は多くの例をあげている(使徒 11:19-21、18:26、ローマ 16:1-16、フィリピ 4:3 参照)。

現代も、それに劣らない信徒の熱意を要求している。日増しに増加する人口、科学と技術の進歩、緊密化する人間関係などは、信徒でなければほとんど立ち入ることのできない活動分野を果てなく拡大しているだけでなく、信徒の賢明な配慮を必要とする新しい課題を提出している。さらに、人間生活の多くの分野からの分離をとめない、キリスト教生活に重大な危険を及ぼすに至っている。そのため、信徒使徒職はいつそう緊急なものとなっている。そのうえ、司祭の数が少ない地域、あるいはまた、ときとして起こることであるが、司祭の任務遂行に必要な自由のない数多くの地域においては、信徒の働きがなければ教会が現存して活動することはほとんど不可能に近い。このような多方面にわたる緊迫した必要性のしるしは、今日信徒に固有の責務をいつそう自覚させ、いたる所においてキリストと教会に奉仕するよう信徒を奮起させる聖霊の明らかな働きである。

宣教活動 21 (信徒使徒職の促進)

聖職位階とともに、真の意味の使徒団が存在して活動しなければ、教会は真に建設されたのではなく、十分に生きていない。また、人々の間におけるキリストの完全なしるしでもない。確かに、行動的な信徒が存在しなければ、福音は、ある国民の天性や生活、またその働きの中に深く浸透することはできない。したがって、教会の設立当初から、成熟したキリスト教信徒団が構成されるように、特に注意しなければならない。

信徒は、神の民に属するとともに、市民社会にも属している。その国に生まれ、教育を通してその国の文化的富に参与し始めており、また、多様な社会的きずなによって、その国民の生活に結びつき、各自の職業を通してその国民の進歩に協力して、その国民の諸問題を自分自身のものと感じつつ、その解決に努力し、それによって、その国民に属している。同時に、彼らは、信仰と洗礼を通して、教会において生まれ変わったのであるから、キリストにも属している。それは、かれらが、新しい生命と働きとによって、キリストのものとなり、すべてのものがキリストにおいて神に従属し、ついに神がすべてにおいてすべてとなるためである。